

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502181		
法人名	株式会社 グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテタウン 南の沢		
所在地	札幌市南区南沢1822-63		
自己評価作成日	平成23年4月13日	評価結果市町村受理日	平成23年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ポテタウン南の沢は自然豊かな閑静な住宅地に位置しています。近くには東海大学もあり、毎年ラベンダー祭りやコンサートが行われています。また地域で行われる運動会や幼稚園から大学生までの吹奏楽部のさわやかコンサート、活発に活動されている町内会の方々による、古希や喜寿のお祝い、クリスマス会、餅つき大会など、それぞれの行事にみんな待ちかねたように参加させていただいています。地域に根ざした生活と交流、地域の方々を支えられて、実現できています。またご家族の方々との交流は、毎月発行される『ポテニュース』を軸に利用者の皆様の日々のご様子を手紙や写真でお伝えし、安心していただけるように努めています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502181&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成23年4月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ポテタウン南の沢」はバス停に近い住宅街に位置しており、豊かな自然に恵まれている。木造アパートを改造した2階建て1ユニットの建物は、ゆったりした広さで階段の昇降は運動になり自立面に繋がっている。平成15年に開設した当事業所は8年目を迎え、地域に根差したホーム作りを目指し、町内会行事に積極的に参加し住民との交流に努めている。事業所で生活している利用者を理解してもらうためにも住民の見学を促したり、また在宅での認知症の相談を受けるなどして、認知症をもつ高齢者のケアについても住民の理解を深めたいと進めている。管理者と職員は理念が日々のケアに活かされるように、さらに個別支援を基にした介護計画の工夫を重ねているところである。また食事が楽しめるように、毎月の外食計画や出前などで好きなメニューを選べるように工夫されている。利用者は近隣や川沿いを散歩したり近くの南の沢神社に出かけ、車いす利用者も玄関前で外気浴を楽しんでいる。職員は希望に応じて、衣服や本、お花の個人的な買い物に同行するなどして、利用者の活き活きた暮らしを支えている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
	1. ほぼ全ての利用者の		1. ほぼ全ての家族と	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 家族の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 家族の1/3くらい	
	4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
	1. 毎日ある		1. ほぼ毎日のように	
	2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度	
	3. たまにある		3. たまに	
	4. ほとんどない		4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. 大いに増えている	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 少しずつ増えている	
	3. 利用者の1/3くらい		3. あまり増えていない	
	4. ほとんどいない		4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての職員が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 職員の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 職員の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての利用者が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 利用者の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 利用者の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
	1. ほぼ全ての利用者が		1. ほぼ全ての家族等が	
	2. 利用者の2/3くらい		2. 家族等の2/3くらい	
	3. 利用者の1/3くらい		3. 家族等の1/3くらい	
	4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			
	1. ほぼ全ての利用者が			
	2. 利用者の2/3くらい			
	3. 利用者の1/3くらい			
	4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月例会で理念を唱和し、穏やかな暮らしが出来るよう、常に確認すると共に、地域とも連携を密にし、良好な関係を保っています。	「穏やかで人間らしい暮らし、自分らしさや誇りが持てる暮らし、住み慣れた地域での安心した暮らし」という理念の内容が介護計画にも活かされているかを確認し、職員は要所に掲示してある理念を見てケアを振り返っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	活発な活動をされている、町内会、民生委員の方々との連絡を密にして、行事やボランティアなどに積極的に参加して交流を深めています。	利用者は多種の町内会行事に参加する他、月2回の交流会に職員と一緒に出かけている。また中学校で行われている幼稚園から大学までの吹奏楽部のさわやかコンサートを聴きに行くなど、行事を通して交流が深められている。近くの福祉会館には頻繁に遊びに行き、日常的な交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議にお見えている民生委員の方に声掛けをお願いし、地域の方々に認知症の理解を深めるお話しのお会などをおこなっています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の職員の方の提案で、グループホームを地域の方々に開放し、理解していただいているという提案があり、地域の方の参加がありました。	運営推進会議は利用者・家族代表と町内会役員、地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月ごとに開催されている。災害時の緊急連絡体制や認知症理解への話し合いなど、主に行事の情報交換が多く、家族参加の意識不足も見受けられる。	テーマを事前に決めて、会議案内の送付や議事録の取り扱いなどの工夫で、家族の参加意識が高まるような取り組みに期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に連絡し、利用者の病状を伝え、病院を紹介してもらったなどのケースがあります(利用者は穏やかに過ごしています)。	介護保険担当者や生活保護担当者とは定期的に情報を交換している。困難事例がある時は担当者と相談しながら解決に繋げて、利用者が安定した生活を送れるように対応している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠もありません(出入りの際はチャイムが鳴りますので)、歩行が不自由な方も、長時間車椅子を使用しないよう心がけています。	社内研修で身体拘束を学び、日々のケアの中で事例を取り上げて確認している。禁止するような言葉かけや語尾が強い時は管理者が注意対応を話し合っているが、全職員が共通の認識を持って確認し合うような方法を特に設けていない。日中は玄関に鍵をかけず、チャイムの音で出入りを見守っている。	身体拘束となる指定基準の範囲を資料などを用いて職員間で確認すると共に、抑制に繋がる言葉を職員間で出し合い、全職員が共通認識の下で定期的に確認できるような工夫にも期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の講習会などに出席した職員などを中心に話し合いが行われ、適切なケアを行うよう心がけています。		

ポテタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護も講習会等に出席した職員を中心に学習していますが、具体的な実行例はありません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、納得されるまで十分に行っています。また契約内容の変更、改訂があれば、すぐに連絡し、了解を得ています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望、疑問などについては、よく話を聞き、改善の方向に向け取り組んでいます。	家族の来訪時や電話連絡の折に、介護計画や受診の状況を報告する中で意見を聞いている。意見などは苦情処理記録や介護記録などに記録しているが、個人ごとに意見を集約できるような方法を検討している。また、大きな行事の時に家族間で話し合う場を作り、意見などを運営に反映させたいと考えている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の要望、疑問などを聞き、職員全体で話し合う機会を設け、改善するように努めています。	月例会や普段のケアの中で職員の意見を取り上げ、介護計画の変更や業務の改善を行っている。設備、環境整備なども運営者と相談しながら解決に繋げている。介護計画の原案作りや行事担当など、それぞれの役割を持って職員も運営に参加している。管理者は希望に沿って勤務調整をしながら働きやすい環境作りに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の改善に関しては、自由に意見や提言が行える環境になっており、条件の整備の努力がなされています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会にはなるべく多くの職員に参加してもらい、受講者は事業所内で報告会を開いています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の職員の仲立ちで、他のグループホームとの相互訪問の予定が組まれています。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人的なことはなかなか話しながらないことが多いのですが、時間をかけてゆっくり信頼関係を築いて行くように努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方のお話を良く聞き、出来ることを説明し、納得いただいて実行するようにしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の体調、精神状態、好み、要望などを理解し、みんなでその情報を共有し、対応するように努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ること、出来そうなことを知り、掃除、炊事、食器洗い、片付け、菜園や花作りなどをしてもらっています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院その他、外泊、外食、外出などのサポートをお願いしたり、週に1回でも電話などしていただくようお願いしています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい人との電話や、手紙のやりとり、また会いに来て貰うなど、交流が途切れないように気に掛け、フォローしています。	友人や退居した利用者の来訪時には、おやつを皆と一緒に楽しく過ごせるように雰囲気作りをしている。美容室や墓参りには家族の協力を得ながら馴染みの関係が継続できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの居室を行き来し、テレビを見たり、おしゃべりしたり、居室で過ごす時間を作っています。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に電話などで近況報告してもらっています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望される買い物など、できる限りスムーズに要求が満たされるよう心がけています。	個人の暮らしや趣味などは、家族の協力を得ながらセンター方式でアセスメントに情報を収集し、介護計画に反映できるように検討を重ねている。意思表示の困難な利用者には、問いかけや表情を見て思いを把握しながら対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に近況などをお話する際、以前の家庭内での状況を伺うなど、状況把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身の状態を記入し、申し送りて伝えることの積み重ねで、現状の把握に努めています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期、長期の目標は担当者に記入してもらい、日常の「変化の要点の記録」(月例会で介護職員全員で検討)と照らし合わせ、介護計画を作成しています。	介護計画は状態に変化がない場合は3ヶ月ごとに見直している。当職員が感じた要点を基に意見を交換して、本人の意向を入れた介護計画を作成している。現在、アセスメントの新しい情報の蓄積や利用者の個別支援に繋がる介護計画を検討している。	日々の記録に連動できるような具体的な介護内容を基に、更なるモニタリングの充実化に期待したい。また、一連の流れで介護計画が把握しやすいように書類の整備にも期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果等は各個人別の「介護記録」に記録され、それが月例会で、全介護職員によって報告検討され、情報の共有が図られ、次回の介護計画の見直し等に生かされています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家に帰りたがる入所者など、小規模多機能的要素の必要性を感じる時もありますが、現状では実際に行えることは限られています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用、発掘などには、コーディネーター的な働きをする人、組織が必要だと痛感しています。地域包括センターにこの役目をお願いしたいと働きかけているのですが。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	夜間の医療対応のため、指定往診医をお願いしています。また往診時に家族に来て貰い、主治医への要望・質問などを行ってもらい、医療に関する不安を取り除いてもらっています。	月2回の協力医の定期往診時に、事業所から伝えたいことと主治医の所見を記録に残し情報を共有している。入居前のかかりつけ医などの受診時には同行する家族に介護の要点の情報を渡している。また緊急時や家族の都合が付かない時は職員が同行し、主治医と連携を密にしている。	

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員による気づきや情報など、往診時に看護職員や主治医に伝え、対応してもらっています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医は24時間体制の医療機関であり、緊急の場合でも入院や治療が行える体制になっています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については、本人の希望も含め、家族との話し合いを行っています。(まだ全員ではありませんが)	利用契約時に、医療行為が必要な時は入院方向になる事業所の対応を説明し了解をもらっている。終末期には家族と主治医との話し合いに事業所も同席し、今後の方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には緊急マニュアルが用意されており、職場近くに住む職員が駆けつけるなどの体制になっています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、避難訓練なども定期的に行い、地域で行われる訓練にも参加しています。	今年度は消防署の立会いの下で、利用者も参加して夜間を想定した避難訓練を2回実施している。次回の避難訓練には住民の参加を得て行う予定である。地域の役員を含めた緊急連絡網を作成し、地域の水害訓練に参加しているが、事業所としての火災以外の対策は今後の課題である。	地震対策のマニュアルを検討しているので、職員間でシミュレーションを行うなどして確認されることを期待したい。また、災害時備蓄品の保管にも期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の見守り時にもそれなりの配慮をしています。	月例会でプライバシーを損ねない言葉かけについて話し合い、日々配慮した対応を行っている。人格を尊重し、苗字や名前に「さん」付けで利用者と呼んでいる。記録は事務スペースで行い、記録類は事務所で保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意志での洋服選びや外食、出前の時なども本人の好みに注文しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事も、まず本人の希望を聞き、それに添うような選択を心がけています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の要望に合わせて、美容院にカットに行ったり、洋服を選んだり、その人らしい生活が出来るよう支援しています。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の食事の下ごしらえや後片付けなどのお手伝い、また季節の行事食や外食の選択、毎日の献立選び、等々、利用者の能力や好みを反映できるように心がけています。	献立は利用者の希望を聞きながら職員が作成し、定期的に栄養士のアドバイスを受けている。毎月外食に出かけたり、誕生日や出勤などで好きなメニューを選んでもらうなど、食事が楽しめるように工夫している。畑で作った野菜や庭のぶどうなど季節の食材を取り入れ、職員は利用者とは話をしながら食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量はそれぞれに合わせて調節し、水分摂取量は摂取量がはっきり解るよう、一日ずつ表にまとめて確認しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食、夕食後は必ず歯磨きを行い、就寝前には義歯を入れ歯洗浄剤に浸け清潔を保つようになっています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの人に合わせた排泄の見守りで、排泄は自立している人が多いが、リハビリパンツを使っている人は、その人のペースに合わせてトイレ誘導を行っています。	排泄はほとんどの利用者が自立している。誘導が必要な利用者は排泄パターンを把握して声かけを行い、トイレでの排泄を支援している。入院によりおむつやパットを使用するようになった利用者も声かけにより失禁が少なくなり、おむつの使用が減るなどの改善が見られた事例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の摂取や、ヤクルト、ジョアなどの乳酸菌飲料の摂取など整腸に勤め、出来るだけ薬に頼らない排便を心がけている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	見守り、介助の必要な人が多いため、曜日や時間帯を決めていますが、要望があれば、それにとらわれず、入浴、シャワー浴、足浴等行っています。	水木、土日を入浴日としているが、希望や状況に応じて柔軟に支援し、各利用者が週2回以上入浴できるようにしている。夏季や排泄の失敗時など状況に応じてシャワー浴や足浴を行い、清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れてソファなどで傾眠されている時は、部屋に誘導し、休んでもらうようになっています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後の調剤薬局による副作用などの情報は壁のボードに貼り、全職員に確認してもらい、誤飲、飲み忘れ等がないよう管理を徹底しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に、紙芝居や書道、塗り絵、貼り絵などを楽しみ、また近くのゲームセンターでゲームをしたり、お菓子や飴などの買い物など、それぞれの要望に添える支援を心がけています。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩やお買い物の他、町内会の行事(運動会、演奏会、お祭り、お花見、餅つき大会やクリスマスや敬老などのパーティ)、お誕生日の夕食など、外出の機会が多いのですが、ご家族との外出や、それぞれの要望にも応えるようにしています。	冬季以外の天気の良い日は近隣や川沿いを散歩したり、近くの南の沢神社に出かけている。車いす利用者も玄関前で外気浴をしたり、お茶を楽しんでいる。利用者の希望に応じて、衣服や本、お花などの買い物に出かけるなど、個別の外出支援も行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解の上、本人の希望する金額を自由に使えるように渡し、ものの価値観やお金の大切さを実感してもらえるよう支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望通り、電話を掛けるお手伝いをしたり、ご家族よりの電話の取り次ぎをしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に、明るく見通しのいい落ち着いた空間になっています。行事の写真、みんなの作品、四季おりおりのかざりつけなどが展示され、季節感が感じられる様工夫されています。	居間の大きな窓からは近くの川や山の木々を見渡すことができ、季節の移り変わりを身近に感じることができる。台所を中心に居間と食堂をコーナーで分けた造りで、各利用者がそれぞれの場所で落ち着いて過ごせるように工夫がなされている。居間には季節の花や利用者の写真が飾られ、落ち着いた環境でゆったりと過ごせるように配慮がなされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	声を掛け合って居間に集まり、おしゃべりしたり、ゲームをしたり、テレビを見たり、と、楽しそうな日常を過ごしています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が寂しくならないよう本人や家族の写真、また自分の作品や好きなお花の鉢を飾るなど、それぞれ工夫しています。	各居室にはストーブや時計が備え付けられている。壁には多くのポスターや写真、自分の作品など本人の好みに応じて飾り付けを行い、居心地よく過ごせるように工夫がなされている。各利用者に応じて使い慣れた物や馴染みの物を持ち込み、落ち着いて過ごせるように配慮がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレへの道筋など、必要と思われるところには手すりを設置するなど、転倒防止を図り、自立した生活を続けられるよう援助しています。		

目標達成計画

事業所名 ポテタウン 南の沢

作成日：平成 23年 5月 18日

市町村受理日：平成 23年 5月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は利用者・家族代表と町内会役員、地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月ごとに開催されている。災害時の緊急連絡体制や認知症理解への話し合いなど、主に行事の情報交換が多く、家族参加の意識不足も見受けられる。	テーマを事前に決めて、会議案内の送付や議事録の取扱の工夫で、家族の参加意識が高まるような取り組みをしたい。	家族から話し合いたいテーマを提案してもらうなど、議題の内容の再検討、またその結果の議事録をわかりやすく、親しみやすい形にして、運営推進会議を意義あるものにしたいと思います。	次回から
2	6	社内研修で身体拘束を学び、日々のケアの中で事例を取り上げて確認している。禁止するような声掛けや語尾が強い時は管理者が注意し対応を話し合っているが、全職員が共通の認識を持って確認し合うような方法を特に設けていない、日中は玄関に鍵を掛せず、チャイムの音で出入りを見守っている。	身体拘束となる指定基準の範囲を資料などを用いて職員間で確認すると共に、抑制につながる言葉を職員間で出し合い、全職員が共通認識のもとで定期的に確認できるようにする。	抑制につながる言葉遣いなど、もう一度全員で問い直し、それらを検証する機会を定期的に設けたいと思います。	今月から
3	26	介護計画は状態に変化がない場合は3ヶ月ごとに見直している。担当職員が感じた要点をもとに意見を交換して、本人の意向を取り入れた介護計画を作成している。現在アセスメントの新しい情報の蓄積や利用者の個別支援につながる介護計画を検討している。	日々の記録に運動できるような具体的な介護内容をもとに、モニタリングの充実化を計り、一連の流れで介護計画が把握できるように書類の整備をする。	介護計画の実施と、その結果が同一文書の中で把握でき、その結果等によって次の段階に進めるような書類の整備を行いたいと思います。	早急に対処
4	35	今年度は消防署の立ち会いの下で、利用者も参加して夜間を想定した避難訓練を2回実施している。次回の避難訓練には住民の参加を得て行う予定である。地域の役員を含めた緊急連絡網を作成し、地域の水害訓練等にも参加しているが、事業所の火災以外の対策は今後の課題である。	地震対策のマニュアルを検討しているので、職員間でシミュレーションを行うなどして確認する。災害時備蓄品を整備する。	地震発生時の対応に関して全職員の対策マニュアルの作成、災害時備蓄品の整備を行う。	早急に対応
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。